総　会　決　議

神奈川県の中央部に位置する県央・湘南都市圏では、新東名高速道路及び首都圏中央連絡自動車道を形成する横浜湘南道路など、国土の骨格となる道路の整備が進められている。

この都市圏は、現状においても、面積及び人口において本県全体の約３割を占め、製造業事業所数及び製造品出荷額においては本県全体の約４割を占めるほか、学術研究機関や大学の立地数においても、横浜市域における立地数に匹敵するなど、高い潜在力を有する地域である。このような中、首都圏中央連絡自動車道の一部であるさがみ縦貫道路が全線開通し、沿線地域への企業立地がさらに進むなど、この都市圏の持つ潜在力が発揮されつつある。

また、平成 28 年４月には国の交通政策審議会の答申で、相鉄いずみ野線の湘南台から倉見までの延伸や小田急多摩線の延伸、相模線の輸送サービス改善など、この都市圏における鉄道整備の意義が示された。

そうした観点から、神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会では、東海道新幹線新駅を寒川町倉見地区に誘致するとともに、新駅誘致地区周辺と相模川対岸の平塚市大神地区を一体化し、環境と共生する魅力ある都市づくりを目指す「ツインシティ」の整備や、相模線の複線化等を始めとする交通網の整備が、都市圏全体の発展に不可欠であるとの認識のもと、鋭意その推進を図っているところである。

東海道新幹線については、「のぞみ」型の旅客輸送が担っている輸送ニーズの多くがリニア中央新幹線に転移することにより、東海道新幹線のサービスも相対的に「ひかり」・「こだま」型を重視した輸送形態へと変革することが可能となり、新駅設置の可能性が高まることとなる。

一方、リニア中央新幹線については、品川・名古屋間の早期整備に向け、沿線各地で工事が進められている。本県においても、川崎市内では、大深度地下シールドトンネルの調査掘進が行われており、相模原市内では、山岳部トンネルや、沿線の中間駅で唯一の地下駅となる神奈川県駅で工事が本格化するなど、着実に事業進捗が図られているものと承知している。

当期成同盟会としては、リニア中央新幹線の着実な事業進捗により、寒川町倉見地区への新駅設置の期待がますます高まってきていると感じている。

このような状況の中、新幹線新駅の誘致を更に推進するため、まちびらきを迎えた「ツインシティ平塚市大神地区」においては、引き続き、土地区画整理事業を進めるとともに、「ツインシティ寒川町倉見地区」においては、都市計画の手続きを進めていく。また、両地区を結ぶ（仮称）ツインシティ橋など周辺の道路網の整備に向けて取り組んでいく。今後も、県央・湘南都市圏全体の魅力ある都市づくり、交通網の整備に向けて、今まで以上に精力的かつ着実に取り組み、県土全体の活性化につなげられるよう、新駅誘致活動を一層強力に展開していくこととする。

以上、決議する。

令和５年７月 31 日

神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会